

JA全農えひめ情報 みらい〜ど

■新春座談会

愛媛農業の明日を切り拓くJAグループの役割

■JA直売所めぐり

JAうま「ジャジャうま市」

1

2012・January



▶同志会員らが販売



▶コンクール出品果実も展示即売



第34回えひめみかん祭り

(いよてつ高島屋)

愛媛産柑橘のPR・消費拡大と愛媛の果樹農業の振興を図ることを目的に、生産者と消費者との交流イベントとして、果樹同志会や全農えひめなどが主催し、毎年実施している「えひめみかん祭り」。今年は、1月21日(土)～22日(日)の2日間、松山市のいよてつ高島屋8階スカイドームで開催します。

34回目となる今回は、「カラダに愛を。こころに愛を。えひめのみかん」をテーマに、多彩な催しでイベントを盛り上げていきます。

当日は、県内各地から選抜された果実コンクール出品果実(審査は20日)約200点をはじめ、話題の新品種を展示・試食即売。また、毎年好評のみかん餅つき、ポンジュース蛇口、みかん綿菓子、みかんクイズ、小学生の描いた「みかんのある絵」コンクールの作品展示と表彰式などを行います。

なお、今年は、全農えひめが品種登録した「エクリーク65」(ブラッドオレンジ「モロ」と「太田ボンカン」のキメラかんきつ)を、会場で果実の展示と試食を提供しながら愛称を募集することになっています。ぜひ、ご来場くださいませ。

【場所】いよてつ高島屋 8階スカイドーム

【時間】午前10時～午後7時(22日は6時まで)

あぐり〜ど

January 2012

CONTENTS

全農グループの経営理念

私たち全農グループは、
生産者と消費者を安心して結ぶ
懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。

- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

今月の表紙



新しい年を迎えた夜半過ぎ、山の上から
来光を拝もうと暗いうちに出発です。
頬を刺す風は冷たく、吐く息は白く、
やっと着いた山頂で大きく大きく深呼吸。
新年のすがすがしい空気が肺の中に
流れ込みます。だんだんと辺りが白み、
太陽が水平線から姿を現し始めます。
あたたかい空気に包まれて、体の中まで
パワーがはいてくるような。

今年、よい1年となりますように。

●表紙：初日の出
はら ふみ(イラストレーター)

※「あぐり〜ど」は、「愛媛農業 (Agriculture)」を「リード (Lead) する」という意味と「心をつなげる (Agreed)」という意味を込めています。

農の風景Vol.133

第34回えひめみかん祭り (いよてつ高島屋)

2

会長年頭あいさつ

4

〈新春座談会〉

愛媛農業の明日を切り拓く
JAグループの役割

12

ふるさと ESSAY VOL.201

生きた心で

久保田 夏菜さん

14

TOPIC NEWS

18

私たちがTACです

～JAひがしうわ 営農部 指導課・角藤 慎一さん～

19

「えひめの食」通信 2012. 1月号

20

なんでもBOX

21

統計BOX

25年連続日本一！愛媛県のはだか麦

22

JAふるさと自慢Vol.133「直売所めぐり」

JAうま「ジャジャうま市」

24

READERS通信

NOW NOW COOKING〈今月の素材〉高菜

JA全農えひめ

ホームページ

<http://www.eh.zennoh.or.jp>

■JA全農えひめ「えひめの食」企画

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ehimenosyoku/>

※「えひめの食」では、旬の農産物情報を発信しています。

◆(株)えひめ飲料

<http://www.ehime-inryo.co.jp>

◆JAえひめ物流(株)

<http://www.jat-ehime.co.jp/>

◆JAえひめフレッシュフーズ(株)

<http://www.eh.zennoh.or.jp/ja-fresh/>

◆(株)ひめライス

<http://www.himerice.jp/>

◆JAえひめエネルギー(株)

<http://www.ja-ehimeene.co.jp>

会長年頭あいさつ

新年を迎えて



全国農業協同組合連合会愛媛県本部
運営委員会 会長

岡本 健治

新年を迎えるにあたり謹んでごあいさつ申し上げます。組合員ならびに読者の皆さまにおかれましては、清々しい新春を迎えられたこととお喜び申し上げます。

平素は、本会事業の各般にわたり格別のご指導・ご協力をたまわり、厚くお礼申し上げます。

昨年は東日本大震災という未曾有の出来事がありました。巨大地震の後東日本を襲った大津波、これに続く原発事故は東日本だけでなく愛媛にもあらゆる方面で影響を及ぼしています。

日本の経済もこの震災により大きな打撃を受けましたが、その後

は持ち直しの動きが続き、今後も、新興国を中心とした海外経済の拡大と国内における震災復興需要により緩やかな回復に向けた動きが継続していくと見込まれています。

農業分野においてはT P P（環太平洋連携協定）が何よりも重要な課題となっています。J Aグループでは、国内農業・地域社会の崩壊につながるT P Pへの参加には断固反対であるとの方針のもとで国民運動を展開しましたが、政府は昨年11月に「交渉参加に向けて関係国との協議に入る」との方針を打ち出しました。このままでは日本の国民生活・農業の将来に大きな禍根を残すものとなります。私たちは、日本の食とくらし、いのちを守るため、各界・各層とより一層連携し、T P P交渉参加阻止に向け徹底して行動していく必要があります。

また、国内農業生産基盤においては、依然として高齢化・担い手不足による生産基盤縮小が進展しています。さらには円高・デフレを背景とした消費者の低価格志向、安価な輸入農畜産物、原発事故に起因する風評被害などによる販売価格の低迷と生産コストの高止まりも相まって、農家経営は危機的な状況が続いています。

今、まさに厳しい環境にあつて、全農では、中期3カ年計画で、「国産農畜産物の販売力強化」を全事業の共通目標として位置づけ、これを支えるものとして「生産コストの低減」「購買品目の取扱強化」を事業上の最重点施策としています。これらの施策のスピードアップや環境変化に対応した見直し・実践を行い、会員J Aや組合員の皆さまの目に見える形にしていかなければなりません。地域の農業を成長産業とし、農家所得の向上を実現していくことが組織としての果たすべき役割と考えています。

その中で、全農愛媛県本部では、本年を生産振興をメインテーマとした「第3期生産・販売・購買一体事業」の仕上げの年として取り組むとともに、各事業においてグループ会社と連携し、会員J A・組合員の皆さまから求められている組織の役割を発揮し、愛媛農業の確かな未来を切り拓いていきます。

最後になりましたが、本年も会員・生産者の皆さまの一層のご指導・ご支援をお願い申し上げ、新年のごあいさついたします。

■新春座談会

愛媛農業の明日を切り拓く JAグループの役割



JA周桑 戸田 耕二 専務



JAにしよう 田中 治志 理事長



JA全農えひめ 諏訪 玄 県本部長



JAえひめ中央 福島 龍雄 専務



JA全農えひめ 新口 武男 部長

〈出席者〉

田中治志	JAにしよう 代表理事理事長
戸田耕二	JA周桑 代表理事専務
福島龍雄	JAえひめ中央 代表理事専務
諏訪玄	JA全農えひめ 県本部長

〔司会〕

新口武男	JA全農えひめ 営農販売部長
------	----------------

TPPは地域・農業への影響大 JAグループ挙げて反対運動を

新口 あけましておめでとうございます。

昨年は、3月11日の東日本震災と原発事故、度重なる台風、そして環太平洋連携協定（TPP）の交渉参加問題など、農業者にとって外的要因に振り回されることが多い一年でしたが、昨今の社会・経済情勢は目まぐるしく変化しており、JAグループは、農家の生活や地域の農業を守るため、素早くて確な対応が求められています。

本日は、系統経済事業対策委員会メンバーのJA常勤役員3人と全農愛媛県本部の諏訪県本部部長から「愛媛農業の明日を切り拓くJAグループの役割」をテーマに、取り組みや今後の方向、抱負などを語っていただきたいと思います。

まず、野田首相が11月にTPP交渉への参加に向けて関係国との協議を始めると表明しました。このことをどう捉えていますか？ 地域農業への影響も踏まえて、感想や意見をお聞かせ下さい。

最初に、JAにしようわ田中理事長からお願います。

田中 当JA管内は柑橘主体の地域で、1991年のオレンジ輸入自由化の時には大変な問題となりました。農家では今回は果樹についてはあまり影響はないのではとの

受け止めもありましたが、輸入農産物の関税が撤廃されれば、国際価格との比較の中で、国産果実の価格の低下は否めないのではと思います。

それ以上に、国産で培ってきた食の安全・安心の基準が大きく変化するのではと危惧しており、消費者にも影響を及ぼす大きな問題となるのではと感じています。

こうしたことから、柑橘農業・当JA管内の生産者にとってもかなり大きな影響があると懸念しています。

新口 影響が大きいとされている米の主産地であるJA周桑の戸田専務はいかがでしょう？

戸田 当JA管内の米の作付けは2,000ha以上あります。10年以上前には60kg米価が16,000円程度でしたが、現状では12,000円程度と再生産が危ぶまれる価格となっています。これが関税撤廃により諸外国から安い米が入り米価がさらに下がると、再生産はおぼつかない。

管内の稲作農家は約4,000戸ですが、万が一、TPPに参加すれば経営が成り立つ農家はほとんどいないのではないかと、地域農業への影響は非常に大きいですね。

新口 JAえひめ中央の福島専務はどうでしょう？

福島 野菜の消費動向を見てみると、全体の55%が加工・業務用で、その内の32%が既に輸入で占められている状況ですから、

関税が撤廃されるとさらに輸入のウエイトが高くなってくる。そうすると野菜に限らず国産農産物の消費量や価格にも当然影響がおよびますし、日本農業を守るといった国民的なコンセンサスや意識づけが出来てこない、安全・安心だけでは、消費者に国産を選んでもらうことが難しい時代が来るのではと懸念しています。

また、マスコミ報道では、農業の強化や改革の必要性を訴える意見に同感できる部分もありますが、これまでの農政や農協組織に対する批判も大きくなっていくのではと感じています。

新口 国内や県内農業全般を見て、諏訪県本部長からお願いします。

諏訪 直近の本県農業産出額は、1,222億円ですが、TPPの影響で米や畜産を中心に460億円減少するとの試算があり、大変大きな問題だと位置づけています。

農業は、「産業」でありながら「地域を守る」という側面もあります。公共事業が減る一方で工場は海外へ拠点を移すなど、地方には第一次産業しか残らない。我々JAグループが農業と地域を守らなければならない使命がある。そういったことを国民に理解してもらうことも大切です。

TPPについては粘り強くJAグループ挙げて反対運動に取り組むとともに、その一方で足腰の強い農業づくりや、国民への理解の醸成にも取り組んでいく必要がある

と考えています。

新口 足腰の強い農業づくりに向けて国は、平地では20 haから30 ha、中山間地では10 haから20 haの大規模化を図ろうとしています。ですが、これについては？

田中 本県のように段々畑で栽培されている柑橘は、農地の集約や大規模化は難しい。共選を一つの単位として改革を進めていくべきだと考えています。

戸田 J A周桑では、既に集団化による大規模化を進めています。耕作できなくなった農地を担い手に集約し、結果的には大規模化につながっていますが、一方では地域の農業・農家の財産を守つてもきています。

しかし、国がいうように20 haから30 haに集約できたとして、関税が撤廃された後も生き残ることができるか疑問もある。さらに、大規模化できない地域や、参加ができない農家はどうか。国は優良事例を示しますが、全ての農家がそうなれる訳でもない。一部の優良農家だけでは、地域全体の農業は守れない、と思つています。

地域の農業を守っていくために、J Aがどう対応していくか、大きな課題です。J Aの役割を再認識してもらうためにも、県中央会や全農県本部も含め、もっと積極的に農政活動やJ Aを知ってもらう活動を行う必要があるのではないのでしょうか。

福島 水田農業はやはり大規模化の方向だとは思いますが、それには基盤整備が必要

です。面積だけ拡大できてもあちこちに分散しては効率が悪い。集約するにしても、そこまで考えてやらないと競争力はつかないと思います。

果樹については本県は傾斜地なので作業性・労働面からも規模拡大は現実的に難しい。引き受け手の問題などもあり、農地の流動化も進みにくいのが現状です。規模拡大よりは、優良な農地を引き継いでいくために、J Aとして積極的に関与していく必要があります。

諏訪 皆さんと同感で、やはり県内では20 haから30 haの大規模化は難しいと思います。集団化や流動化などにより、担い手に農地を集約するなど、地域の実情を踏まえた産地づくりに取り組むべきだと思います。

高齢化や耕作放棄地 鳥獣被害も深刻

新口 TPPなどの外的な要因以外に地域の農業の現状や課題などは？

田中 J Aにしろわでは、農地の集積を目的に、八西地域の農地流動化委員会というのを立ち上げています。J Aが貸し手と借り手の間に立って調整する仕組みですが、川上地区ではいち早く取り組み、耕作放棄地は発生していません。これをJ A管内全体に広げようと進めています。



しかし、規模拡大に積極的な農家に借り手になつてもらつたのですが、急傾斜の段々畑でもあり、また、収穫が集中するので労力的にも限界が出てきました。しかも家庭選別が大変な作業であり、こうした点をクリアしないと更なる面積拡大はできなくなってきました。

このため、全部の園地を残すことは難しく、優良園地をとにかく守っていくことに照準を合わせて取り組むことにしています。が、それすら将来的には不安が残ります。

これまでは、共選のブランド力を維持しようとして専業農家全体に対応してきましたが、これからは、後継者がいる世帯、いない世帯、高齢化している世帯と、経営規模

や将来の経営など実態に応じた生産指導や選果場の受入などきめ細やかな対応をする必要があるかと感じています。

戸田 一番の問題は、果樹園で耕作放棄地が急激に増えてきていること。JA周桑では、積極的に拡大したい農家、兼業でやる農家、趣味的にやる農家などと、農業に対する姿勢・考え方がそれぞれ異なる中で、集落としてどういう形で営農振興していくか、集落に向き話し合いを行っています。

地域の農業を守るのはJAの役割だと認識していますが、果樹園は、高齢化の進展もあり、なかなか具体的な方向が示せないのが実態で、どうしていくのが課題です。

福島 JAえひめ中央は、合併してから13年を迎えています。販売の取扱高が約240億円あったのが約140億円と、柑橘を中心に100億円も減っています。価格の低迷もありますが、高齢化による耕作放棄地の拡大や、高齢農家では収入が一時的になくなるため品種更新に二の足を踏むなど園地の老朽化が進み、また生産者組織も弱体化し、生産量・出荷量が減少しています。

鳥獣被害も深刻です。行政でも様々な施策を行っていただいています。電気柵は追い払うだけで根本的な解決には至っていません。今後の大きな課題です。

共選への結集と集団化で生産力を高め地域と農業を守る

新口 そうした課題や農業振興に対して、JAの果たす役割とは、また各JAではどのように取り組んでいますか？

田中 JAにしようには10共選あり、この度、選果機を更新できましたが、10年後、また将来、農家数が減少すれば、施設投資とその分担金を考えると、再編は避けて通れない。農家数の実態に合わせた再編を考えなければならぬと思っています。

また、これまで築いてきたブランド力は、高い集荷率・共販率に支えられ、毎年、一定量を安定的に供給することに努めてきた結果だと思っています。しかし、インターネット直売など、農家が思い通りに販売すれば、計画性もなく安定供給もできない。共選への結集力をどう高めていくか、営農販売特別プロジェクトを設置して検討しています。

もう一つは、生産力。高齢化対策や担い手の確保など、JAが地域の農業へいかに支援していく体制が構築できるか。作る体制をどうしていくか、行政とも一体となつて、ビジョンをもって提案していく。これが一番重要なことです。

戸田 JA周桑は米麦地帯です。農地を守っていく、また競争力のある担い手をつくるということからも、米麦については集

団化の方向で進めていくしかないと思います。様々なレベルの集団がある中で、経営体として育てていく。麦作だけの集団は、米も含めて経営を確立できるようにしていきたいですね。

青果物については、品目は多いが大きな品目が少なく、全農とも連携しながら企画販売や直販にも取り組んでいきたい。その一方で、共選・共販に乘れない農家も増えていくことが予想され、JA直売所「周ちゃん広場」の拡充で対応していく方向です。

福島 地域農業の担い手に対しては、総合的な経営指導まで踏み込んだ対応をしたいと考えています。

JAえひめ中央は、9か所の営農支援セ



ンターを設置し、地域ごとの特性を踏まえた生産指導を行っています。行政とのタイアップの面など、今後、もう一度、機能や体制を見直したいと思っています。

販売面では、それぞれの特徴を活かした販売に取り組んでいます。特に柑橘は、「紅まどんな」など優良品種も増えており、全農や県・市と連携しながら取り組んでいきたいと考えています。

いずれにしても、生産・販売・購買一体事業が、JAの果たすべき機能、役割だと考えおり、再度、体制整備も含め、力を入れていきます。

JAの基本は農家と接すること 出向く営農活動を強化

諏訪 農家とのつながりということでは、出向く営農（TAC）の設置を呼びかけています。県域TACとあわせ、県内では5JA50人が活躍しています。

先日には、全国のTACパワーアップ大会で15人が表彰されましたが、県内からもJAうまのサトイモ「伊予美人」産地化の取り組みと、JAひがしうわカボチャの振興で2人が表彰されました。

JA周桑でも、TACシステムを導入し、日々の活動が目に見えるようにしているなど、農家とのつながりでは、徐々に成果が出てきているように思いますし、JAにし

うわでもTACの名称ではないですが、農家へ出向く体制を整えていますね。

戸田 JA周桑がTACシステムを導入したのは、農家から「指導員があまり来ない」との声が出てきたからです。JAの基本は色々な面で農家と接すること。積極的に農家訪問ができないのなら、管理するしかないのではとの思いで導入しました。成果はできています。

我々の世代は自主的に目標を持って指導してきたのですが、今の指導員は真面目で優秀だけれど少し消極的かなと思います。農家と接する機会を増やし、新たな品目振興など積極的に取り組んで欲しいですね。

田中 JAにしろわでも以前はもっと園地に出向いていたと思います。営農指導員は農家とJAとの接点です。もっと園地へ出向くとハッパをかけています。

技術的には農家がリードしていますから、農家との接点として、園地まで出向いて、肥料や農薬の使用の相談に乗りながら、経営指導まで含めた営農指導が望まれます。

福島 指導員も安全・安心記帳のチェックや事務作業も増えており、出向く機会が減っているのご意見もあります。また、近頃は、銀行が農工商連携の橋渡しや資金の貸付をしていることから、資金面を含めた総合的に農家指導ができる体制を構築していく必要があると考えています。

JAえひめ中央では、経営管理の高度化



の手法を取り入れ、目標管理を強化しているかとしていきます。営農振興計画においても、地域ごとどの程度進捗しているのか、何を実行したのか、そして今後の対策はなど、営農指導についても細やかな管理をしていくことにしています。

地域に応じた営農振興計画 直販事業で農業所得を向上

新口 担い手の育成や販売強化、営農指導体制など取り組みを語っていただきましたが、営農振興や農業所得の向上にむけ、今後はどのように取り組んでいきたいとお考えでしょうか？

田中 後継者の問題もありますが、まずは

価格の安定。温州みかんは全国で80万トンの時代になり、将来的には右肩下がりだと思っています。今後は、産地が販売先を決める時代が来ると思っています。全農と取り組んでいる直販なども含め、生産を維持して安定価格を構築する。生産力を維持していくのが産地としての大きな役割です。

そのためには、優良園地を残していくなければなりません。JAでは、先ほどの園地流動化など総合的な営農支援の対策を講じていきたいと考えています。

販売促進では、JA独自で一昨年から7、000万円かけて「クレヨンしんちゃん」を西宇和みかんのキャラクターとして起用しています。特に20代の若い世代への裾野が広がり、効果がありました。

JA管内は、温州みかん専作地帯、温州と中晩柑の複合地帯、中晩柑の専作地帯と3つに分類されます。この地域の特徴を活かしつつ、生産力を維持していくのが、農家所得の確保・向上に向けたJAにしようの大きな施策となります。

戸田 JA周桑は、中期3か年計画の2年目ですが、農業振興の一番のポイントは、耕作放棄地が増える中で、いかに生産力を守っていくためにどうするかです。

農家の農業に対する姿勢・考え方に温度差が出てきており、集落単位で農地をどう守っていくのか、農家所得をどう確保して

いくのか、農家に入り込んで、積み上げた農業振興計画でなくてはならないと思います。集落座談会を通じて生産力を掘り起こしていくと取り組んでいます。

農家の所得を上げるためには、ある程度直販も必要だと位置づけ、「周ちゃん広場」を起点とした販売強化も図っています。

福島 JAえひめ中央では、2011年度から「笑顔あふれる産地づくり」をスローガンに掲げ、5か年の第3次営農振興計画がスタートしています。

販売面では、温室みかんからカラマンダリンまで、柑橘の周年供給体制を確立させ有利販売を目指していきます。担い手づくりでは、認定農業者をメインに、農業生産法人の育成にも取り組むことにしていますし、農家の経営分析の支援体制を構築し、農業所得向上にも力を入れていきます。

また、直売所「太陽市」を拡充させるなど地産地消への取り組みを強化し、『えひめ中央』のファンづくりを進めていきます。

これらを基本に、管内9か所の営農支援センターごとに、地域の農作物に応じた特徴のある計画を策定し、地域農業振興の実践に努めています。

JAや担い手とタッグを組んでモデルづくりを推進

新口 こうしたJAの取り組みを支援して

いこうと、全農愛媛県本部では、「生産・販売・購買一体事業」を進めています。これまでの取り組みと今後の方向についてお聞かせください。

諏訪 JA経済事業の総合力を発揮して農業振興と農業所得の向上を図ろうと、2004年度にスタートしました。

第1期は、生産履歴の記載など安全・安心対策の徹底や資材コストの低減対策として予約の結集に成果をあげました。

第2期には、愛媛の農産物のファンづくりとして「えひめの食」や「オレンジデー」企画を創設し消費者に向けて情報を発信していくとともに、担い手対策として出向く営農(TAC)活動を推進してきました。



今の第3期では、産地基盤を強化している
こうと取り組んでいます。米麦・野菜・果
樹それぞれでJAにも協力いただきモデル
的な産地づくりを進めています。

米では、集団化・法人化の経営モデルと
して、多収性品種や高温耐性品種の栽培や
鉄コーティングによる低コスト栽培技術の
実証などに取り組んでいます。

野菜については、主要品目の生産基盤の
維持に向けて面積拡大にかかる資材助成
や、新たな担い手の発掘に向けた業務用野
菜の契約的栽培を進めています。

果樹では、温州みかんのマルチドリッ
プ方式や伊予柑「弥生紅」の貯蔵法など、J
Aごとにテーマを設け、高品質生産を目的
にモデルづくりを行っています。

これらは販売も連動して取り組む必要が
ありますが、現時点では充分にはできてい
ません。今後、それらも含め、JAや地域
の担い手とタッグを組んで、生産力の強化、
生産基盤の確立を図っていききたいと考えて
います。

生産資材のコスト低減と 販売強化に期待

新口 生産・販売・購買一体事業は、足か
け9年、2012年度が最終年度となりま
す。JAから見た評価や次のステップへ進
むための要望や期待など、ご意見をお聞か

せください。

田中 やはり生産資材のコスト低減対策に
真剣に取り組んで欲しい。農家からは良い
品質の資材をより安価にとの要望が強い。
全国組織となったことの組織力や仕入力を
もっと活かしてもらいたい。

戸田 地域の担い手からは、トータル的に
は高くはないと聞きます。ホームセンター
などの目玉商品と比較して、JAは高いと
の印象があるのではないかと。臨機応変にス
ピード感を持って対応することが望まれる
時代だと感じています。

ただ、農家の所得が減少している中、全
農にはより一層の価格低減に取り組んでい
ただきたい。

福島 予約価格や大口対策などを組み合わ
せると、メリットはあると思いますが、農
家の農業所得が減ってきている中で、やは
り生産資材価格が高いとのイメージが強く
あります。一段の努力をお願いしたい。

諏訪 現時点では原料価格の高止まりから
メリットが見えにくくなっていますが、大
口対策や予約価格を中心に力を発揮してい
きたいと考えています。

一方では、柑橘の農薬「スプラサイド」
が販売中止となるのを全農が権利を取得し
継続供給できるようにするなど農家の負託
に応える取り組みもしています。

田中 もう一つが販売対策。重点市場販売
はさらに強化いただきたいが、2010年

度から市場出荷できない規格外の2Sサイ
ズを、県本部の直販事業と連携して取り組
んでいます。11年産は大玉傾向で十分に数
量が確保できませんでしたが、これは継続
的に取り扱いをお願いします。

これに加え、内容は問題ないが外観が悪
い果実を、市場外で流通できるように販路
開拓をお願いしたい。

諏訪 市場流通に加え、直販事業の拡大に
取り組みます。特にご提案のあった外観が
悪いみかんは、レギュラー品と区分して
新たな販売先に提案していきたいと思いま
す。

戸田 景気の低迷が続く中、農家が望んで
いるのは、再生産ができ、また将来に夢が
持てる販売価格の安定性だと思います。生
産コストは試算できますが、毎年、所得が
変動しているのは、農家も農業経営計画の策
定ができないし、後継者も育ちません。

県本部には地域のJAと連携して販売強
化に努めてもらっていますが、オール全農
として農産物の販売・流通に関して、全国
組織の力を発揮していただきたい。

諏訪 今の全農の考え方は、特に園芸品目
については、各県で対応するとのスタンス
ですが、グループ会社のJA全農青果セン
ター(株)では、1,600億円規模の取扱高
があります。県本部でもこの機能を活用し、
一部の品目ですが値決め販売にも取り組ん
でいますし、本所の営農販売企画部では、



米・野菜・果樹・畜産までを含めた「全農ブランド」の確立も進めることにしています。

福島 「愛のオレンジロード」の取り組みなど消費者に向けた情報発信・アピールは、愛媛の柑橘のイメージアップや消費拡大にとって良いことだと思います。県域としてリーダーシップを発揮し継続的に取り組んでいただきたい。

諏訪 柑橘は愛媛の顔です。JAとも連携しながら消費拡大に取り組めます。また、「えひめの食」テレビ番組や店頭試食宣伝

活動、キャンペーンなどを通じて、愛媛の農畜産物のPRに努めています。

生産力の維持と所得向上で 明るい愛媛農業を実現しよう

新口 県本部への期待やご意見ありがとうございます。最後に、それぞれから今後の抱負や決意をお願いします。

田中 JAにしろわの農業振興は将来的にも柑橘1本で進めます。全国的な生産量は右肩下りの状況です。生産力を維持すれば必ず安定価格に結び付く時代がそこまで来ていると確信しています。

地域の特徴を活かし、生産力を維持し、農業所得の確保を図っていきます。

戸田 農家・担い手を育成し農業を振興するためには、農家手取りを向上させることであり、それがJAの役割です。

JA周桑では、集落営農と直売所を起点として、将来に夢が持てるよう、農家手取りを上げていくことに邁進したい。

福島 地域ごとJAごとに農業のあり方は異なります。JAえひめ中央では、第3次営農振興計画を農家段階まで周知して、これの実現に取り組むことで地域農業の活性化を図りたいと考えています。

信頼される営農指導、経営支援を実践し、農家所得を向上させるために販売強化に取り組む、「笑顔あふれる産地づくり」を目

指してまいります。

諏訪 生産・販売・購買一体事業の目的は、農家所得の向上です。コアモデルからビジネスモデルに、生産者・JAの皆さんと一体となって進めていきたいと考えています。

柑橘はブランド力を積み重ねることで明るい将来があると思います。米麦は集団化・法人化による力強い産地づくりを、野菜では契約的な栽培で産地の維持を図ることができると思います。畜産についても「伊予牛」「絹の味」「ふれ愛・媛ポーク」ブランド力を生かすための基盤強化に取り組んでいます。

東日本大震災をきっかけに、人との絆、地域社会の絆が見直されています。「絆」は協同組合・JAグループの原点です。皆さんとともに協同の力を発揮して、明るい愛媛農業の実現、元氣な産地づくりをめざして取り組んでまいりたいと考えています。今後ともご協力をお願いいたします。

新口 本日はありがとうございました。



生きた心で

ありふれた日常の中で生きていることを実感できるのは、とても幸せなことなのだと思います。

この夏、私が訪れたのはカンボジアのタサエンという小さな村。きっかけは、そのタサエン村に住み地雷処理活動続ける1人の日本人、砥部町出身の高山良二さんとの出会い。平和な社会になることを願って活動に人生を捧げる、その高山さんの生き方に感動し、私は「なぜ活動をしているのですか?」と尋ねました。返ってきたのは「カンボジアに来てくれたらわかりますよ」という一言。そのカンボジアにある「何か」を探しに行ってきたのです。

タイの国境を超えカンボジアに入ると、目の前に広がったのは昔の日本を思わせる風景。赤茶けた1本道が果てしなく続き、その道を子どもたちが裸足で駆け回っていました。鮮やかな緑色の葉が生い茂る木々の脇には、木造づくりの家々が並び、村人たちがのんびりと畑を耕したり、井戸端会議に花を咲かせていました。

そんな長閑な国、カンボジアでの滞在期間は3泊4日。短期間だったため、

村の暮らしを見て回ることが中心になりましたが、やることなすこと全てが驚きの連続でした。村には電気は通っていますが、水道はなく井戸が中心。毎日、スコールで桶に溜まる水を体にかけました。食事はほぼ自給自足、主食は米で、野菜にお肉、お魚。食後は朝、庭で採れたばかりの果物が出てきます。孵化する前のあひるや蛇も、時には食卓に並び、蛇はとっておきの贅沢料理。夜は、家の電気は消されて月明かりだけ、空を見上げると、1つ1つの星がしっかりと光を放ち、星座がわからなくなるほど無数の星が輝いていました。それはまるでプラネタリウムのようなものでした。寝る時は、蚊帳の中かハンモックです。

決して自然には逆らわない、雄大な自然の中にひっそりと人々の暮らしが見える。確かにそこに人々の生活はあるのだけれど、全てが自然の中に同化しているのです。「自然に生かされている」まさに、カンボジアの生活にはふさわしい言葉です。

そのカンボジアに行くまでは、地雷と聞くと、可哀そうという思いが頭の

久保田 夏菜

KANA KUBOTA

テレビ愛媛アナウンサー。広島県広島市出身。1986年8月5日生まれ。獅子座。血液型はA型。

広島大学卒業後、2009年にテレビ愛媛に入社して3年目。

売りは、元気印・フットワークの軽さ・好奇心の旺盛さ。

趣味はダンス。大学時代にはヒップホップを、松山ではアフリカンダンスを習得。昨年の「FNS27時間テレビ」で披露するなど、イベントにも登場している。もう1つの趣味は一人旅。見るもの全てが新しい出会いで体の中からエネルギーが湧いてくるから。怖いものなしになる! 昨年8月に念願のカンボジアへ行く。

JA全農えひめの広報番組「久保田夏菜の『えひめの食』食べちゃおうかな〜」(毎月第1土曜日11:00~11:15)では麦わらリポーターとして、県内のおいしい食材を探しに出かけている。笑顔あふれる農家のみなさんの野菜やお肉などの農水産物への深い愛情をお伝え! 親子で作れる料理コーナー「野菜ソムリエのハートふるキッチン」では、今日のお昼ごはんはこれで決まり!! と、お気に入りメニューになったら嬉しいです。

【担当番組】

EBCスーパーニュース(毎週水・木・金曜 18:15~19:00)

大好き! まつやま(毎週月曜 19:54~20:00)

エミフル、コミュ(毎週金曜 22:52~22:56)



▲好奇心旺盛で無邪気な子どもたち

中をよぎっていました。貧しい中で、毎日の暮らしは命の危険と隣り合わせ。何を希望に生きているのだろう…。それに比べ、今の日本の生活は豊かで、なんて恵まれているのだろうと考えたこともありました。でも、カンボジアでの劇的な体験で、それは大きな勘違いだったということに気づかされました。

私は、心を溶かされたのです。言葉に表現するのがとても難しいのですが、それは感情のリミッターをはずされるというような感覚です。

カンボジアで出会った子どもたちは好奇心いっぱい、私を見ると、瞳を爛々と輝かせ近づいてきました。屈託のない笑顔を見せ、私を仲間の輪に引っ張っていくのです。一度遊んだらみんな友達、毎日誘いにやってきて、一緒にバイクに乗ったり、家に遊びに行ったり。子どもたちの天真爛漫さは、見ていて気持ちがよくなるほど。自然と笑顔が生まれ、一緒にいるだけで幸せな気持ちで満たされました。

大人たちも、「疑う」という言葉を



▲言葉がなくても心はつながる

知らないんじゃないかというほどの優しい笑顔を見せ、私の緊張を解いてくれました。家を横切る私に手をふり、呼び寄せては、家に招いてくれたり、お土産をくれたり…。そのもてなしは昔からの知り合いのよう。それに、ふと気づくと、お母さんたちはごく自然に私の手を握っていたり、頭をなでいたりして、愛情を感じずにはいられませんでした。

言葉の壁を越え、人々の優しさや愛は全てストリートに心に響いてきました。彼らのまっすぐで純粋な心は言葉の壁をはるかに越えていたのだと思います。彼らの心の豊かさに私自身も心が溶かされ、洗われ、その感動が涙という形であふれ出てきました。自分の感情を抑えていたリミッターがなくなったように、あふれ出てくる涙、でも、心は喜びで満たされているのです。彼らの心は、人の心までも動かせる、大きな力です。さらに、その彼らの力を借りて、私の中でもパワーがみなぎってきました。心から笑って、泣いて…。それだけでもエネルギーがいるはずなのに、もっといろんなことを知りたい、見たい、感じたいというたくさんの感情があふれてきました。その時の私の心は間違いなく躍動し、生きていました。

今私が思う真の幸せは、生活の豊かさではなく、心の豊かさ。カンボジアの雄大な自然に育まれた豊かな心は、生きた心を持つ大切さと喜びを教えてくれました。そこは、自分に素直になれる場所でした。

●2011年産夏秋野菜出荷反省会・対策会議

栽培面積・市場出荷量の確保・拡大を

JA愛媛野菜生産者組織協議会とJA全農えひめ青果販売課は、11月25日、2011年産夏秋野菜出荷反省会と12年産の生産対策会議を開き、総括と次年度にむけた取り組みを確認しました。

【販売情勢と販売結果】

11年産は、春先の低温・少雨の影響で出荷開始が遅れ、梅雨明け後は増量傾向となったものの、9月の度重なる台風の影響で出荷量は前年を下回り、数量減の単価高で推移する状況が続きました。

この結果、販売実績は、共販量が前年比97%の10,363 t。kg単価は夏秋トマトを除き総じて前年を上回りましたが、9品目合計の販売額は、前年比98%の34.2億円となりました。なお、過去の販売実績や近畿市場の平均価格を踏まえ品目別に設定した「目標単価」は、9品目中8品目が達成しました。

企画販売は、計画63企画に対し49企画を実施し、取扱額は約3億円（前年比86%）。きゅうりは良品を加工・業務向けに販売し取扱高は前年比108%となりましたが、トマトは同44%と減少しました。

販促・消費宣伝活動では、出荷増量期の「海

品 目	2011年産出荷実績		前年比 (%)		
	共販量 (t)	金額 (千円)	共販量	金額	単価
夏秋きゅうり	4,618	1,176,550	93	102	110
インゲン	80	70,144	81	85	105
アスパラガス	304	307,716	86	89	103
伊予なす	1,105	315,140	91	100	110
松山長なす	224	64,900	85	94	110
枝豆	89	49,457	85	101	118
夏秋トマト	2,671	936,609	108	99	91
ミニトマト	267	155,141	102	102	101
ピーマン	1,004	348,880	103	92	89
合 計	10,363	3,424,537	97	98	—

の日」にあわせ関西市場で集中的に愛媛フェアを実施。また、愛媛やさいのキャラクター「忍たま乱太郎」実写版映画公開にあわせてPRに努めるとともに、「えひめの食」テレビ番組放映と連動した販促活動などを通じ消費拡大にも取り組みました。

【2012年産生産対策】

市場からの要望として、全品目共通で、栽培面積・生産量の確保・拡大が求められており、特に、きゅうり・トマトについては、引き続きプロジェクトによる振興対策・販売対策に取り組んでいくことを確認しました。

●JA愛媛養豚経営者協議会研修会

生産基盤の拡大に向け大洲市に大型新農場を建設中

JA愛媛養豚経営者協議会は、12月1日、協議会の会員とJAなどから40人が参加して、松山市内で研修会を開きました。

あいさつした竹内日出男会長は、「消費低迷やTPPなど環境は厳しいが、関係者が連携し『ふれ愛・媛ポーク』を消費者に選ばれるブランドに育てていこう」と呼びかけました。

研修会では、全農畜産サービス㈱から高い生産性と脂肪交雑が期待できるハイコープ豚ゼンノーD2の紹介や、生産基盤の拡大に向けてJA西日本くみあい飼料㈱が大洲市に建設中の母豚1,000頭規模の大型新農場の概要の紹介がありました。また、生産性向上プロジェクト班が実証の研究成果を発表しました。

開会前には、生産者自ら「JAえひめアイパックス直営せと風ポーク」「大阪泉州の犬鳴豚」「カナダ産」の3種類を食べ比べ評価。結果は今後の参考にすることになっています。



●2011年度愛媛県総合畜産共進会「肉牛・肉豚の部」「交雑種・乳用種の部」 農林水産大臣賞に谷口貴さん・富永治さん

(社)愛媛県畜産協会主催による2011年度愛媛県総合畜産共進会「肉牛・肉豚の部」、「交雑種・乳用種の部」の審査・表彰式が、12月3日、大洲市のJAえひめアイパックス(株)で開かれ、農林水産大臣賞(優等賞首席)には、肉牛(黒毛和種)の部で谷口貴さん(JAえひめ南)、肉豚の部で富永治さん(JA愛媛たいき)が選ばれました。

表彰式後にはJA全農えひめ主催の肉牛のセリを実施。震災や原発事故・消費低迷の影響を

受け枝肉価格が厳しい中での開催となり、kg単価は、最高が3,230円(前年比790円安)でしたが、黒毛和種の平均は2,036円(同148円高)、交雑種1,085円(同245円安)、乳用種710円(同187円安)と、まずまずの結果になりました。

なお、同日には、県畜産功労知事表彰として3名が表彰されました。

その他の受賞者は次の皆さん(敬称略・カッコ内はJA名・知事表彰は市名)。

【肉牛の部】◆優等賞▽次席＝南耕一(松山市)▽3席＝大塚久寿(にしうわ)▽4席＝堀内博(ひがしうわ)▽5席＝山岡造(愛媛たいき)◆1等賞▽首席＝亀井郁悌(にしうわ)▽次席＝土居利行(ひがしうわ)▽3席＝本田順一(えひめ南)▽4席＝福西一人(新居浜市)▽5席＝高橋節雄(周桑)

【肉豚の部】◆優等賞・次席＝安平儀男(ひがしうわ)

【交雑種・乳用種の部】◆優等賞＝堀内博(ひがしうわ)

【県畜産功労知事表彰】▽飯尾要(西条市)▽武田孝雄(伊予市)▽上城房邦(西予市)



▲大臣賞の谷口さん(左)と富永さん

●伊予牛「絹の味」生産技術研修会 佐々木さんと大山さんを特別表彰

JA全農えひめは、11月25日、伊予市で伊予牛「絹の味」の生産技術の向上を目指し研修会を開催。伊予牛「絹の味」生産農家やJAの関係者ら40人が参加した研修会では、2010年度の出荷実績を基にした優良生産農家の中から、生産歩留賞として佐々木邦満さん(JAにしうわ)、生産奨励賞に大山松繁さん(JAえひめ南)を特別表彰しました。

佐々木さんは、4等級以上率が83%、品種・血統にかかわらず生産成績が高位にあること、大山さんは、出荷頭数が年間77頭と多い中、5等級発生率が38%と高成績を挙げ、近年、枝肉成績が改善している点などが評価されました。

研修では、Meiji Seika ファルマ(株)の坂井厚太氏が、家畜伝染病予防法改正と消毒薬の基礎

について説明。「①持ち込まない、②増やさない、③残さないの3原則で消毒による疾病予防を徹底しよう」と呼びかけました。



▲特別表彰の佐々木さん(右)と大山さん(左)

●「ポンジューズ蛇口」でPR 秋葉原でも大盛況

㈱えひめ飲料は、11月13日に東京の秋葉原で開かれた「愛のくに 愛顔のえひめフェスティバル」にポンジューズ蛇口を出展。当日は、たくさんの方に試飲いただき順番待ちの行列が途切れる事なく大盛況でした。

「本当に蛇口からジュースが出た」「噂のポンジューズ蛇口を見られて良かった」「ジュースが美味しい」などと大好評でした。



●JA石碑大展示予約会 3日間で67件の契約

県内JAとJA全農えひめは、11月18日～20日、松山市石手寺前の㈱イフイ本社特設会場で石碑大展示予約会を開きました。

見比べて納得して購入いただこうと、良質で厳選された「大島石」をはじめ、各種石碑を豊富に取り揃えた他、納骨舞台を含めたセット墓や、現品特価品などを設定してアピール。予約会期間中は67件・8,390万円の実績を挙げる事ができました。



●「JAグリーンえひめ」に実習生 実習受入で地域貢献

愛媛県立みなら特別支援学校の高校2年生3人が、11月7日～18日まで（土・日除く）、JAグリーンえひめで職場実習を行いました。レジの応援や売場整理、野菜や果物の袋詰め、花の手入れなどの作業を体験しました。

実習は、同校が生徒の就職支援の一環で実施したもので、同店では、毎年、数名を受け入れ地域に貢献しています。重松幸雄店長は、「今後もこうした取り組みは継続していきたい」と話しています。



●JAグリーンえひめ「保育園児いもほり」 たくさん“採ったど～”

JAグリーンえひめは、11月16日、東温市の南吉井保育所の園児を農業体験農園に招待しました。園児15人が、先生にも手伝ってもらいながら、丸々と太ったサツマイモを抱えきれないほど収穫しました。

出荷会員のフレッシュ市部会の食農教育と地域貢献活動の一環で、収穫体験を通じて農業や農作物に関心を持ってもらおうと、毎年、実施しています。収穫したサツマイモは、同保育所で給食や焼き芋などで振舞われました。



●「いよっこら」で救命講習 一次救命処置を学ぶ

ファーマーズマーケット「いよっこら」は、11月28日、伊予消防署から講師を招き、救命基礎講習会を行いました。心肺蘇生法やAED（自動体外式除細動器）の使い方など、一次救命処置について学び、認識を深めました。

同店は、年間45万人の来店がある店舗としてAEDを設置していますが、従業員に使い方などを周知しようと初めて実施したもの。伊予消防署員から指導を受けながら、人形を相手に救命活動の実習を行いました。

同店の松田店長は、「AEDの仕組みや救命措



置の基礎知識が習得できた。万が一の場合は学んだことを活かしたい」と話しています。

●2011JA愛媛農機ビッグフェア 最新農機を多数展示

県内JAとJA全農えひめは、12月2日・3日、松山市のアイテムえひめで「2011JA愛媛農機ビッグフェア」を開きました。

農機の計画的・効率的な適正導入の促進と安全使用の啓発、新機種・新製品の研修を目的に毎年開催しており、21回目の今回は、「がんばろう日本！がんばろう愛媛農業！」をテーマに、農業生産の効率化や高品質生産に対応できる高性能機械・省力機械、新製品・新技術情報等が提供できる機械を中心に、小物資材を含め幅広く展示しました。

フェアには、県内各地から2,130人が来場。最新農機の実演を通じて性能や特徴などを実感しました。なお、取扱高は5.5億円の計画に対し4.2億円となっています。



▲実演で新性能や特徴をアピール

●NHKを通じ「東日本大震災義援金」 全農全体で585万円を寄附

JA全農えひめは、10月の「レインボーフェスティバル」で、グループ役職員が持ち寄った品物の「チャリティバザー」や「豚肉のセリ販売」などを通じて集まった190,400円を「東日本大震災義援金」として寄附。12月1日に、諏訪玄県本部長がNHK松山放送局を訪ね、吉川幸司局長に手渡しました。

全農えひめでは、毎年、社会貢献活動の一環として、「NHK歳末・海外たすけあい」に寄付してきましたが、今年度は被災者に対する支援が必要と考え震災義援金に変更。なお、JA全農では、全国統一活動として他県本部でも寄附を展開しており、今年も全国で585万円（12月14日集計）を寄附しました。



▲吉川幸司局長（右）に諏訪県本部長が手渡しました。

●TACパワーアップ大会2011

本県から合田さんと角藤さんが表彰される

11月24日、東京都内で開かれた「TACパワーアップ大会2011」で、本県からTAC表彰として合田仁さん（JAうま）、TAC新人表彰で角藤慎一さん（JAひがしうわ）の2人が表彰されました。

大会は、出向く営農担当者（愛称TAC）の取り組みを推進するためにJA全農が開いたもの。全国で6JAと15人のTACを表彰。「担い手とともに食と農の懸け橋となる」などの大会宣言を行い、TAC活動をさらに強化することを確認しました。

25日には、受賞TACの事例報告も行われ、合田さんは「さといもの作付け拡大と共販率向上に向けたTACチームによる生販マッチング」と題して、作付け拡大のための技術普及・新技術の開発、肥料の提案といった営農指導活動

や、生産者と消費者を結びつける生販マッチングのための消費者調査などの取り組みを報告しました。

TACの活動は年々広がり、全国285JA1,543人がTACとして活動しています。



▲表彰された合田さん（左）と角藤さん



古くから野菜の生産が盛んで、「どっちの料理ショー」でも放映された全国有数のキュウリ産地であるJAひがしうわ。同JAでは、今年度からTAC制度を導入し、現在6人が活動しています。角藤慎一さんも今年度からTAC

— JAひがしうわのTAC活動を牽引

!!
TAC®
私たちがTACです

Cとして活動。元々、営農指導員だったこともあり、野村地区の野菜品目のほとんどを担当し、積極的な訪問活動は月間60件を超える勢いです。

野村管内は、葉たばこの県内多数の産地でした。しかし、減反政策や高齢化により止める生産者が増え、耕作放棄地が増加傾向にあったため、カボチャやキュウリの作付けを提案してきました。特に、たばこ並の所得を確保するため、カボチャはそれまでの抑制のみの栽培から、現在の2作型とし面積の拡大を図っています。

販売面でも、市場オンリーから、生協・業務筋へと販路を広げ価格安定につなげながら、加工面でも出荷できないカボチャを焼酎用として利用し、本年も2,000本販売計画するなど、積極的な活動を展開し、同JAのTAC活動を牽引しています。



JAひがしうわ
営農部 指導課
角藤 慎一さん



まいにちが、ごちそう産

「えひめの食」通信 2012.1月号

久保田夏菜の

「えひめの食」食べちゃおうかな〜♪

テレビ愛媛 毎月 第1土曜日 11時00分~11時15分

12月17日の放送は、「伊予牛『絹の味』」。愛媛県の系統ブランド「伊予牛『絹の味』」を育てている今治市の新開忠さんと奥様の圭子さんが、こだわりの飼育方法を紹介。また、野菜ソムリエが「牛肉」と野菜をたっぷり使った「牛肉と長いものコロっとステーキ」を紹介しました。

1月7日の放送は、キャンペーン中の「ひめライス・無洗米『あらうまい!』」の特徴や、製造ラインの様子などを紹介。また、野菜ソムリエが、「媛王」「伊予美人」を使って「あらうまい! DE炊き込みご飯」を紹介します（内容は「えひめの食」ホームページでご覧いただけます）。



〈2月4日（土） 放送予定〉 ふれ愛・媛ポーク

「ふれ愛・媛ポーク」生産農家を訪ね、レポートします。

●2011「愛のオレンジロード」

12月3日「みかんの日」に年末需要に向けPR

JA全農えひめは、12月3日「みかんの日」、エミフルMASAKIで、年末需要の拡大に向けて出荷最盛期の温州みかんや「紅まどんな」の販促を行いPRしました。

当日は、愛媛みかん大使2人が売場で試食を提供しながら「美味しいですよ」「お歳暮にどうぞ」とアピールしました。

全農えひめが、11月3日から4月14日まで、記念日ごとの季節の柑橘の消費拡大に取り組む「愛のオレンジロード」キャンペーンの一環。翌4日には、イオン松山店でも実施しました。

「みかんの日」は、11月3日（いいみかんの語呂合わせ）と、露地みかんの出荷最盛期にあたる12月3日を、全国果実生産出荷協議会（事務局=日園連）・農林水産省が制定しています。

また、11月23日には、東京の汐留シオサイトで日本みかん農協（事務局=日園連）が東日本大震災の復興支援を目的に開いた「チャリ

ティー・イベント」にも参加。大使らが、ミカン主産県と一緒に、募金した人にミカンをプレゼントするとともに、愛媛みかんと「愛のオレンジロード」の取り組みをアピールしました。

同協議会では、福島・宮城・岩手の3県の被災地にミカン10万個を寄贈。本県からも4JAが2万個を提供しました。



なんでもBOX

セルフSS「JASS-PORTにしうわ」オープン

JAにしうわ管内初のセルフSS「JASS-PORTにしうわ」が、八幡浜市保内町のオートパル横にオープンしました。10月28日から11月6日までのオープンイベント期間には大勢の利用客が訪れました。

記念式典でJAの田中治志理事長は、「JAとしての機能を発揮し、組合員・地域住民の負託に充分応えうる施設・サービスであると確信している。JAにしうわの拠点SSとして皆さまにぜひご利用いただきたい」とあいさつ。第1号のお客様には、理事長から花束も贈呈されました。

営業は7時から21時。簡単操作の洗車機も導



入しています。

(JAにしうわ広報誌「たちばな」より)

●国際協同組合デー・愛媛交流集会

2012年は国際協同組合年です

愛媛県協同組合協議会(県農協中央会・県森連・県漁連・県生協連で構成)は、12月5日、松山市で国際協同組合デー・愛媛交流集会を開きました。

国際協同組合デーは、毎年7月の第1土曜日と定めており、本県では1988年からほぼ毎年交流集会を開催。本年で22回目となります。今回は、今年2012年が国連の定めた「国際協同組合年」であることからプレイベントと位置づけ、協同組合間提携の一層の促進と、人と人との絆、「協同」の大切さを再認識する場として開催されたものです。

各組織から180人の関係者が参加した交流会では、各組織の取り組み事例の報告が行われました。JAグループからはJAおちいまばりが「地産地消の地域農業振興の拠点づくりをめざして」と題して、同JAの直売所「さいさいきて屋」の概要や食農教育、学校給食への供給など、取り

組みの考え方や事例を報告しました。

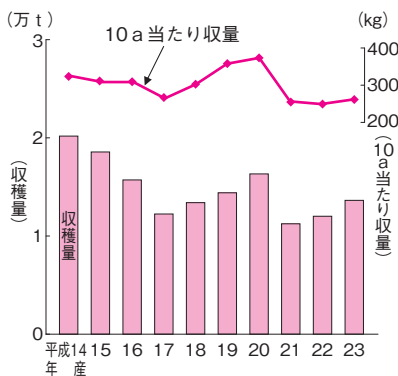
また、記念講演では「地域づくりと協同組合の役割」と題して、三重大学大学院の石田正昭教授が、おかやまコープとJAグループおかやまが連携して地産地消に取り組んでいる「おかやま育ち」の事例を紹介。協同組合間提携の促進を強調しました。



統計BOX

25年連続日本一！愛媛県のはだか麦 —平成23年産4麦の収穫量調査結果(概数)の概要から—

図1 はだか麦の10a当たり収量
及び収穫量の推移(全国)

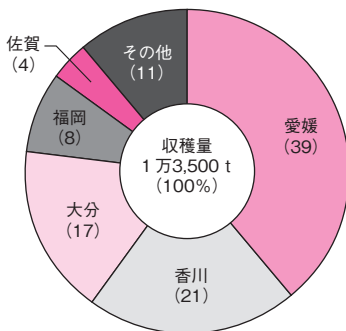


全国の作付面積・ 収穫量は増加

平 成23年度から「農業者戸別所得補償制度」が実施されています。そこで今月は、制度の対象品目となっている麦の中でも、愛媛県の主要農産物であるはだか麦の生産について見ていきたいと思います。

平成23年産はだか麦の全国の作付面積は5,130haで、前年産に比べて410ha(9%)増加しました。これは、九州、中国地域等において農業者戸別所得補償制度の本格実施により作付が増加したためです。10a当たり収量は263kgで、大分県等において春先の低温や5月下旬の降雨の影響による生育の抑制等があったものの、作柄の悪かった前年産に比べて13kg(5%)上回りました。以上のことから、収穫量は

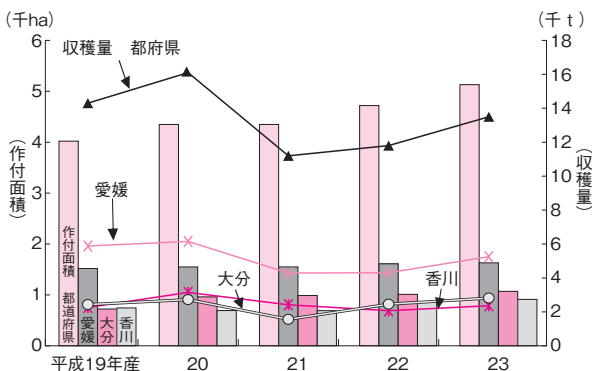
図2 平成23年産はだか麦の
都道府県別収穫量割合



愛媛県の収穫量は、大幅増

愛媛県の作付面積は1,630haで、前年産に比べて20ha(1%)増加しました。また、10a当たり収量は322kgで、前年産に比べて54kg(17%)増加しました。愛媛県の収穫量は1万3,500t(100%)で、前年産に比べて20ha(1%)増加しました。また、10a当たり収量は322kgで、前年産に比べて54kg(17%)増加しました。愛媛県の収穫量は1万3,500t(100%)で、前年産に比べて20ha(1%)増加しました。また、10a当たり収量は322kgで、前年産に比べて54kg(17%)増加しました。

図3 はだか麦の主産県及び都道府県の
作付面積・収穫量の推移



(20%) 上回り、収穫量は5,250tで大幅に増加しました。昭和62年産以降、作付面積、収穫量ともに25年連続全国第1位と他県を大きく引き離しています(図3)。農業者戸別所得補償制度の本格実施により、作付面積は増加しましたが、今後のさらなる生産拡大のためには、実需者ニーズに対応した安定供給体制を確立するため、排水対策の徹底等による作柄の安定化、生産性が高く、高品質の品種開発・普及を含めた生産対策の推進が重要となっています。

中国四国農政局
松山地域センター 農政推進グループ



インフォメーション ジャジャうま市

- TEL/0896-23-3377
- 営/9:00~16:00
- 休/無休
- ※12月31日は正午まで営業、1月1日~4日は休
- 住/四国中央市中庄町1684-4
- URL/http://www.ja-uma.or.jp/info_sancyoku.html

JAふるさと自慢 直売所めぐり

vol.133

ジャジャうま市 ~JAうま~

特産の里芋、山の芋が充実！ 冬だけどアツ〜イ直売所

イベントカレンダー

- ・1月7日~9日 周年祭
- ・3月 彼岸セール(ハナシバ大量入荷)
- ・5月 ゴールデンウィークフェア
- ・6月 ジャが玉フェア
- ・7月 夏のびっくり大感謝祭
- ・8月 お中元・はなしばセール
- ・9月 新米・里芋祭り
- ・11月第3土・日曜 産業祭・グリーンフェスタ
- ・12月 年末セール



河村 完司さん
(ジャジャうま市 店長)

「地元の里芋でつくった芋焼酎『やまじころし』で今夜も一杯、いかがですか」

一帯をジャジャうまフィールドと呼ぶ広々とした敷地内にある「ジャジャうま市」。周辺にゆったりと停めることができる駐車スペースは100台以上可能です。店舗面積は約320㎡、車いすも通れる広い通路、明るい店内に地元産の新鮮な野菜が並んでいます。

「ジャジャうま市」のオープンは10年前の平成13年12月。テナント張り、土曜日午前中のみ営業でした。平成20年1月にリニューアルし、それまでの3倍規模の新店舗となり、終日営業に時間を拡大。昨年4月からはお客様の要望にこたえて年中無休となりました。

72名からスタートした出荷会員も今では約570名の大所帯となり、来客数は1日約700人、多いときには1,000人を超え、2010年度の売上実績は約2億6千万円。

「ジャジャうま市」は、「JAうま」をそのまま語呂合わせ、「宇摩地方の産物がいっぱいイメージにながれば」と名付けられました。まるで「じゃじゃ馬」のようにエネルギーが溢れる直売所です。

宇摩地方の 人気一番産直店



▲元気野菜のイラストが目印、ジャジャうま市



【ピンポイントmap】



【広域map】

声

「安心して、大量に野菜を買っています」

通所介護事業所「JAうまデイサービスセンターあったか荘三島」の栄養士の高石さんは毎日「ジャジャうま市」の開店と同時に買い出しに出かけしています。「当日に使う野菜をその日の朝に買いに行きます。毎日30人分の昼食をつくるので、大量の野菜が安くまとめ買いができて助かっています。高齢者の食事は、加熱をするものは温度を測るなど細かくチェックして安全や衛生面には特に気を遣いますから、朝どれの新鮮な野菜が毎日手に入るのには本当にありがたいです。今の時期だとフレッシュなイチゴなどがいいですね」



▲30人分の食事を用意している栄養士の高石さん(左)と調理員の芳林さん(右)

宇摩の野菜は冬が旬

宇摩地方は日本三大局地風・やまじ風に耐える作物、里芋の中四国随一の産地です。冬の当直売所には「伊予美人」を中心に、女早生やセレブスなど、里芋がごろごろと並びます。京阪神へと出荷される希少種の山の芋が手軽に手に入るのも当直売所ならではの。指定産地だったホウレンソウも冬本番。大根、カブ、白菜など露地ものの冬野菜も旬を迎えています。

JAうまが誇る農薬・化学肥料ら削減のエコえひめ認証米「うまそだち」、霧深い山里からは新宮茶と富郷茶、年中需要のあるハナシバ（シキビ）、生産者の飼育による豚肉やハム、鮮魚コーナーではデビルやイリコなどの海産物など、旬の地元産は農作物に限りません。

当直売所の売上げの40%を占める加工品も里芋商品が数多く、むき芋、餃子や天ぷら、ドレッシング、焼酎など。生産者部会が天然素材にこだわった「いもたきのだし」は今年注目の新商品です。いつも人気の巻き寿司や惣菜類、漬物も好評です。

▼菜の花。店内には一足早い野菜も並び



▶冬から春にかけては「イチ」も人気



▲里芋はカゴからあふれそう



▲幅をきかせる冬野菜たち



▲里芋の食感も楽しめる、「さといも餃子」

▲クリーミーな味わい。「伊予美人(里芋)コロquette」



▲精米はサービス「うまそだち」



▲店内風景



▲鮮魚コーナーでは瀬戸内海でとれた活きのいいワタリガニも



▲餅つき大会。「つきたてがもらえるなら寒さもへっちゃら」と行列は続く

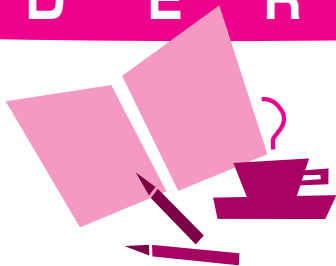
4年目の春に感謝をこめて

1月7日(土)～9日(月)は周年祭が行われます。7日(土)は七草粥の無料接待、8日(日)は愛媛県のご当地アイドルグループ・ひめキュンフルーツ缶の歌と握手会、餅つき大会、ガラポン抽選会など、楽しいイベントを多数そろえてお待ちしております。



石川 靖さん
(ジャジャウ市場 職員)

「寒さでおいしさが増すホウレンソウは私の一押し商品です。ぜひお召し上がりください」



●11月号の「農の風景」で紹介していた「亥の子」。今秋、松前町の北伊予地区で見かけました。子どもの頃には、実家でこの時期になると早朝3時から、石で「亥の子」をついていたものです。豊作を祈る、正に農の風景だなと、懐かしく思い出しました。

いつまでも続いて欲しいものです。

(松前町・田中 克也さん)

●4月14日が「オレンジデー」であることを知り、大変関心を寄せて11月号の特集「愛のオレンジロード」を読みました。というのも、私達夫妻の結婚式が昭和44年4月14日だったからです。お互いの愛情を確認しあう日として、1994年に県内の柑橘生産者が発案した、ということも知りました。これからも、この日を大切に、季節の柑橘を味わいたいと思う次第です。

(西条市・石川 治代さん)

●11月号の「ふるさとESSAY」の岡山さん。自然全体をつかむことが一番、目先の知識や情報をたくわえることよりも大事である。とのメッセージが伝わり印象的でした。その道の伝道者とは、普遍的・根本的な考え方が必要になってくるのです。

(松山市・永井 朋代さん)

●以前、アケボノツツジを見に、家族で石鎚に出かけました。父は、お山開きには必ず参加する山大好き人間でした。秋はスカイラインのドライブにと、石鎚とともに家族の年輪をつくってきたと言っても過言でないくらい。

石鎚で活動されている岡山さんの「ふるさとESSAY」を読んで、天狗岳から手を振る子ども達の姿が思い出されました。

「みかん」はどこでも食べることができ、お手軽でお出かけの友にも良いです。リングのように包丁が要らないから、ですね。これからの季節、色々な品種を味わいたいです。

(今治市・村越 久美子さん)

●以前は祖父がみかんを栽培していて、友人や知人に送り喜ばれていました。我が代になると、だんだん老木になり美味しいみかんが採れなく

なりました。孫ができ、今度は我々が栽培して都会に送ってやりたいなと思っています。

11月号のJAふるさと自慢・直売所だよりで紹介していたJAにしろわは、柑橘の種類の多いこと。春までオンパレードですね。青い海とみかん園地の美しい風景を見て、日本一のみかん産地だなと思いました。

(西条市・松尾 紀子さん)

★(編集部より) 今年も1月21日・22日の2日間、松山市のいよつ高島屋で恒例の「えひめみかん祭り」を開催します。色々な品種を食べ比べて選べます。ぜひ、お越しくださいませ。

●11月号のトビックニュースで、(株)えひめ飲料が「東日本震災復興支援イベント」に協力した記事を読んで、まだまだ復興の進まない被災地の方に、こういった形でも関わりを持っていくことに、県民として嬉しく思います。

また、「いよつこら」でも出荷会員が持ち寄ってチャリティーバザーを行い義援金として寄附した記事も。私もわずかながら募金も行いましたが、今後も様々な形で元気づけてあげられたらいいと思います。

(松山市・中平 寛子さん)

●JAにしろわ特産品センターの前を通るのですが、11月号を読んで、小さなショップでも、全国各地に利用者を抱えていて、年間売上を見てびっくりしました。これからもアンテナショップとして頑張ってほしいです。

夏に同窓会があって、小さな手土産として愛媛みかんジュース缶を皆に渡しても喜ばれました。「愛媛といえばボンジュース」と合言葉のように言われていましたので、少し肩の荷を降ろすことができました。

(八幡浜市・岡 葉子さん)

【訂正とおわび】
12月号「農の風景」で紹介した藤岡達夫さんは、「竜夫」さんの間違いでした。訂正しお詫びいたします。

今月のクイズ

毎月第一土曜日にテレビ愛媛で放送している「えひめの食」提供番組。1月7日は「あいうまい」ですが、2月4日の放送予定は?

「ふれ愛・媛○○○」

プレゼント

クイズに正解した方の中から抽選で、図書カード1,000円分を10名様にさしあげます。

応募方法

折り込みハガキにクイズの答えと本誌に対するご意見・感想などをお書き添えの上、ご郵送ください。



締切り

平成24年2月10日(当日消印有効)

発表

「あぐり」3月号で発表します。

当選者発表

11月号の答えは「旬」でした。たくさんのお便りありがとうございました。厳正な抽選の結果、次の10の方に図書カード1,000円分をお送りします。

石村 絵里さん (四国中央市)	宇高 優美さん (四国中央市)
高橋千代美さん (西条市)	越智 伸恭さん (今治市)
益崎 君枝さん (上島町)	小倉 章夫さん (松山市)
松本美智子さん (松山市)	亀田 均さん (伊予市)
梶原 量之さん (大洲市)	高橋由希乃さん (大洲市)

編集後記

★2011年の世相を表す漢字は「絆」。東日本大震災では人々の絆が見直されましたし、サッカー女子W杯で優勝した「なでしこジャパン」はチームワークとあきらめない気持ちを与えてくれました。「絆」は相互扶助の精神に基づく協同組合の原点。今年は「国際協同組合年」です。協同の価値を高め、地域社会の絆を深め、明るい展望が見える年になればいいなと思います。(まさゆき)

NOW NOW

COOKING

今月の素材

高菜



クセになりそうな、辛み味
ミネラルたっぷり、冬野菜

▶(右) 高菜漬けの鍋、(左) 高菜の油炒め、(後) 高菜漬け



指導／学校法人愛媛学園 (愛媛調理製菓専門学校) 大西 望先生

高菜漬け

〈材料〉	※約253kcal
高菜	1 kg
塩	40 g
昆布	10cm角 1 枚
鷹の爪	2 本

〈作り方〉

- ① 高菜は洗って広げ、半日間、天日干し。
- ② ①を5mm幅に切る。
- ③ 昆布は細切り、鷹の爪は種を取り、小口切りにする。
- ④ ナイロン袋に②と③と塩を入れてよく揉み、空気を抜いて密封し、冷蔵庫で保存する。
- ⑤ 水が出てくれば食べ頃。水気を軽く絞っていただく。

高菜の油炒め

〈材料・4人分〉	※1人あたり約100kcal
高菜	200 g
鷹の爪	1 本
ごま油	大さじ 1
酒	大さじ 3
④ 醤油	大さじ 2
みりん	大さじ 1
すりゴマ	大さじ 3

〈作り方〉

- ① 高菜をたっぷりの湯でゆがいて、水にさらし、水気を切って5mm幅に切る。
- ② フライパンにごま油と鷹の爪を入れて火にかけ、①を炒める。
- ③ ④を加え、汁気がなくなるまで煮詰める。
- ④ ③にすりゴマをまぶす。

高菜漬けの鍋

〈材料・4人分〉	※1人あたり約375kcal
高菜漬け (市販でも可)	150 g
豚バラ薄切り肉	300 g
豆腐	1 / 2丁
えのきだけ	1 袋
白ネギ	1 本
水	1,200cc
和風だし	大さじ 1

〈作り方〉

- ① 豚バラ肉は一口大に切る。豆腐は角切り、えのきだけは石づきを取り、ほぐす。白ネギは斜めに切る。
- ② 鍋で水と和風だしを沸かせて、①の具材を加える。
- ③ ②の具材に火が通れば高菜漬けを加え、味を調えて器に盛る。

※好みでポン酢などをつけていただく。

POM 愛媛みかん旬ストレート100

期間限定販売中



『果物に旬があるように ジュースにも旬がある。』

1Lペット	370円 (税別)
350mlペット	160円 (税別)



- ①みかんが最もおいしくなる11月中旬以降の旬のみかんを搾り、濃縮しないでストレート果汁のまま仕上げています。
- ②果汁以外何も加えていない無添加の100%ジュースです。
- ③2011年産の愛媛みかんのみを使用した、今しか飲めない商品です。
- ④旬の愛媛みかんのさわやかな香りとコクのある味わいです。



株式会社 えひめ飲料

〒791-8603 松山市安城寺町478番地 TEL:089-923-1500 FAX:089-924-0304
http://www.ehime-inryo.co.jp (通販専用)http://www.pom-j.com

無洗米
「あらうまい!」で
家族のしあわせを
応援します。



あらうまい!で

家族のしあわせ応援!キャンペーン

キャンペーン応募期間 平成23年12月19日(月) ▶ 平成24年2月29日(水)

合計600名様に当たる!!

楽しい食卓を応援!



Aコース 3名様

10kg分以上1口で応募

お米と冷やごはんで作るパンができる!
**ライスブレッドクッカー
GOPAN(ゴパン)**
パナソニック

米粒からパンを作る機能はそのままだ、新パンブロセスの改良でさらなるおいしさを追求。それに加え、冷やごはんを使ってパンが作れることで、お米を使ったパンのメニューバリエーションが広がります。

いつもの家事を応援!



Bコース 3名様

10kg分以上1口で応募

iRobotのお掃除ロボット
ルンバ537

ロボットならではの高い清掃能力と優れた機能性を十分に実感いただけるスタンダードモデルです。お掃除完了、またバッテリー残量が少なくなると、自動で充電器へ戻り充電を開始します。さらに遠隔操作でお掃除させることも可能です。

ちょっとした贅沢を応援!



Cコース 24名様

2kg分以上1口で応募

愛媛の肉で無洗米をおかわり!
**伊予牛「絹の味」
焼き肉用ロース**
(約500g)

厳選された子牛を、愛媛の生産農家が長い飼育技術で仕上げる、伊予牛「絹の味」。煮やぶつ、刺身づくり、焼肉といった生産者から、加工、販売までを一貫して行っていますので安心・安心です。

家計をちょっと応援!



Dコース 125名様

2kg分以上1口で応募

誰にでも喜ばれる「美味しいギフト」
おこめギフト券
(お米引き換え価格2200円)

全農のおこめギフト券は、全国の「A」スーパー、デパート及びお米販売店で使えます。お祝いやお礼、記念品とさまざまな用途で便利にご活用いただけます。※一部お米店にのみご利用が可能です。

Wチャンス 445名様

さらにはずれた方の中から抽選で
**無洗米あらうまい!
愛媛県産コシヒカリ
(2kg) プレゼント!**



＜応募方法＞

ひめライス無洗米「あらうまい」の米袋裏面左上に付いている「ひめマーク」を切り取り、A・Bコースは10kg分以上を1口(もち米1.4kgなら5枚1口)、C・Dコースは2kg分以上を1口(もち米1.4kgなら1枚1口)としてご応募ください。応募ハガキまたは郵便ハガキに、ご希望の賞品コース(「Aコース」「Bコース」「Cコース」「Dコース」のうち1つを選択)、郵便番号、住所、電話番号、氏名、年齢、購入店、ひめライズに対するご意見・ご感想を明記の上、ご応募ください。

※お一人一応募枠は必ずご留意ください。一週につき一回はさせていただきます。

詳しくは、ひめライスHPをご覧ください。http://www.himerice.jp/

＜対象商品＞

ひめライス無洗米全商品(もち米を含む)
(応募先)
〒791-3163
伊予郡松前町大字徳丸字五郎屋敷771-25
株式会社 ひめライス

家族のしあわせ応援!キャンペーン係

(応募締切)
2012年2月29日(水) 当日消印有効

(当選発表)

米袋裏面左上の「ひめマーク」を切り取って送ってね!



厳正なる抽選の上、賞品の発送をもって発表にかさせていただきます。